

季節の変化にあわせた快適な生活の仕方に関する検討

Comfortable Living Adapted to Changing Seasons

千森 督子 嘉本 知子 東口 依未

Tokuko Chimori Tomoko Kamoto Emi Higashiguchi

要 約

小学5年生と6年生の実生活における季節の変化にあわせた快適な生活の仕方について検討した。その結果、夏涼しい住まい方では、現代的な電気器具による方法と昔からの通風、うちわ、遮光等の伝統的方法が混在して用いられており、最多は小学生ではクーラー、短大生は通風である。涼しい着方では、袖や裾の短い被服の着用、薄着は共通し、衣服を重ねない着方や帽子は小学生の方が用いている。冬暖かい住まい方では、電気器具、布、湯と多様な方法があげられているが、とりわけ電気器具が主流で、炬燵は根強く活用されている。近年復活しているのが湯たんぼである。暖かい着方では、重ね着や厚着、靴下、発熱素材下着は共に用いられているが、外出時の防寒着は異なり、小学生は手袋、短大生はマフラーが最多である。また、帽子は短大生ではあげられていない。

はじめに

小学校の学習指導要領(家庭科)¹⁾では、「快適な被服と住まい」の領域の中の「快適な住まい方」で、「季節の変化にあわせた生活の大切さがわかり、快適な住まい方を工夫できること」と内容が示され、暑さ・寒さ、通風、換気及び採光を取り上げることが明記されている。暑さ・寒さについては、新学習指導要領²⁾においては、「日常着の快適な着方と関連を図ること」と記述されている。また、教科書^{3),4)}では、「季節の変化にあわせた快適な住まい方」において、住まいと被服の両分野から対策が示されている。住まいの分野では、「現在の暮らし方」だけでなく、自然の力を上手に活かし、エネルギーを節約できる暮らし方として「昔の暮らし方」も取り上げられている。

本稿は、今後の家庭科教育に資することを目的に、これらの領域を現在、学んでいる小学生と、同じ学習指導要領の元小学校で学んでから10年程経て生活力が身に付いている、大学生が実生活ではどのようにして、「涼しい暮らし方」、「暖かい暮らし方」を実践しているのかを検討する。

方法

研究方法は、小学生は選択肢方式(複数回答可能)を用いた質問紙法で調査を行い、大学生は自由記述方式の質問紙法による調査を行い、それらの結果から考察する手法をとる。

対象の小学生は、家庭科学習学年の5年生と6年生とし、和歌山県でも紀の川中流域の伝統的な農村地域に位置する、紀の川市立粉河小学校の児童である。大学生は、生活学を専門に学ぶ、本学の生活文化学科生活文化専攻の1年生と2年生である。大部分が和歌山市居住で、一部、和歌山県北東部と中部からの通学生が含まれる。

有効回収率は小学生では、5年生 97.9%(在学生 48名中 47名)、6年生 100%(在学生 43名中 43名)、合計 98.9%(在学生 91名中 90名)である。短大生は、1年生 94.6%(在学生 56名中 53名)、2年生 96.3%(在学生 54名中 52名)、合計 95.5%(在学生 110名中 105名)である。

調査年月日は、小学生が平成29年11月30日であり、短大生が、平成29年10月6日と10月5日である。

結果及び考察

季節の変化に合わせた快適な生活の仕方には、住生活と衣生活があるが、各々別に取り上げ、小学生と大学生別に考察し、比較検討を行う。

1. 涼しい暮らし方

(1) 涼しい住まい方

①小学生の涼しい住まい方

小学生が夏涼しく暮らすために行っている住まい方として、345の回答があった。その内、最多が、「クーラー」(25.2%)であるが、「扇風機」(23.8%)もほぼ同じ割合である。次が、「通風」(19.7%)であり、「うちわ」(14.5%)、「遮光」(9.3%)、「打ち水」(5.2%)の順である(図1)。

クーラーと扇風機は現代的な電気器具を用いた方法であり、それ以外は昔ながらの風、水、遮光による方法である。前者の現代的な電気器具による方法は49.0%であり、後者の昔ながらの方法は48.7%であるために、ほぼ半々用いられていることがわかる。

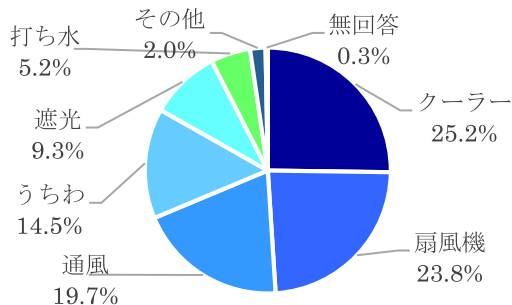


図1 小学生の涼しい住まい方

学年別に考察しても順位は同じであったが、現代的な電気器具による方法が、5年生では52.4%に対して、6年生は

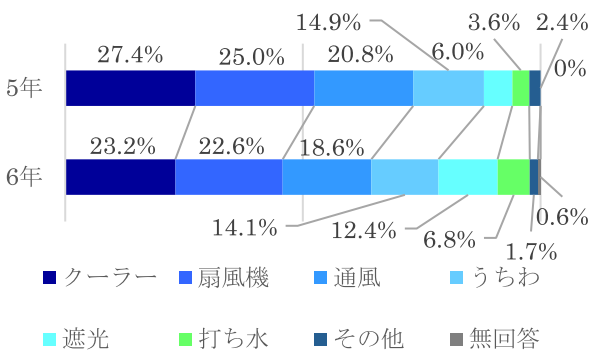


図2 小学生の涼しい住まい方(学年別)

45.8%とわずかに少なく、昔ながらの方法がやや多い傾向にある(図2)。

②短大生の涼しい住まい方

短大生が夏涼しく暮らすために行っている住まい方として、165の回答があり、その内、「通風」(28.5%)が最多で、次いで、「クーラー」(26.7%)であり、これらで過半数を占める。次に、「扇風機」(16.4%)が多く、カーテンなどによる「遮光」(3.6%)や「簾」(2.4%)、「打ち水」(1.8%)、「うちわ」(1.8%)が続く。少数ではあるが、音により涼感を得る、「風鈴」(1.2%)があげられている。また、「インテリアを寒色に変える」(1.2%)といった現代的な発想もみられた(図3)。

涼しい住まい方に関しては、昔からの住まい方が現代的な方法と共に用いられており、とりわけ基本の「通風」が「クーラー」より、わずかであるが多い点には着目したい。

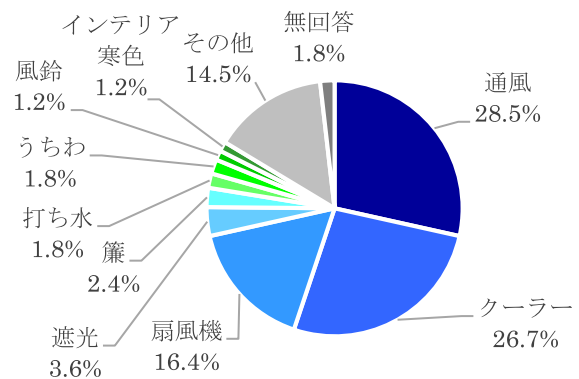


図3 短大生の涼しい住まい方

学年別に考察すると、1年生は「通風」と「クーラー」が27.4%と同じ割合であったが、2年生は「通風」(30.0%)の方が「クーラー」(25.7%)より多い。全体的に現代的な電気器具による方法が、1年生では48.5%であるに対して、2年生は35.7%と少なく、昔ながらの避暑対策が多く用いられている傾向にある(図4)。

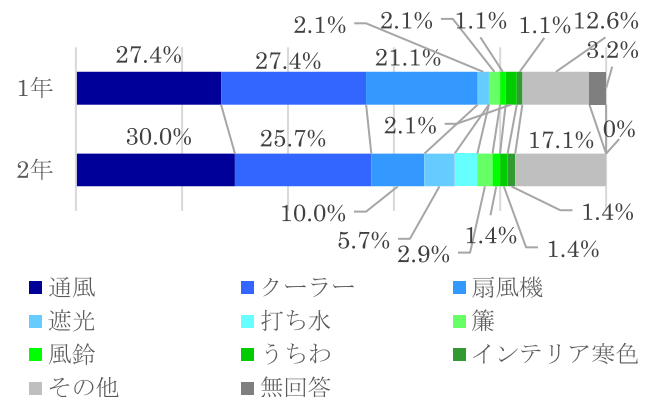


図4 短大生の涼しい住まい方(学年別)

③小学生と短大生の涼しい住まい方の比較

小学生と短大生の夏涼しい住まい方を比較すると、最も多いのが、小学生が「クーラー」(25.2%)であるに対して、短大生は「通風」(28.5%)である。小学生では「通風」(19.7%)は「扇風機」(23.8%)に次いで3番目である。一方、小学生は「うちわ」が14.5%みられるが、短大生は1.8%と少数である(図5)。

現代的な対策としては「クーラー」や「扇風機」といった電気器具による方法が主であるが、伝統的な住まい方では、「風」、「水」、「遮光」、「植栽」を用いた、自然の力を上手に活かした、エネルギーが節約できる住まい方である。小学生、短大生共に混在して用いている。

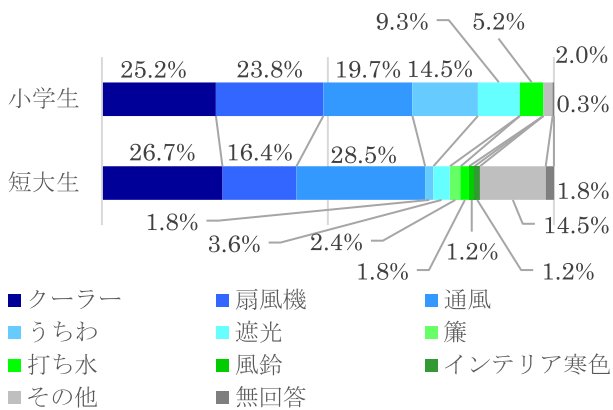


図5 小学生と短大生の涼しい住まい方比較

(2) 涼しい着方

①小学生の涼しい着方

小学生が夏涼しく暮らすために行っている着方として 318 の回答があり、その内、最も多いのが、「袖短・裾短⁵⁾」(23.3%)である。次が、「薄着」(22.6%)であり、「吸汗性」(12.3%)、「単衣⁶⁾」(11.9%)、「帽子」(11.6%)、「素足」(10.1%)、「開襟服」(7.2%)の順である(図6)。

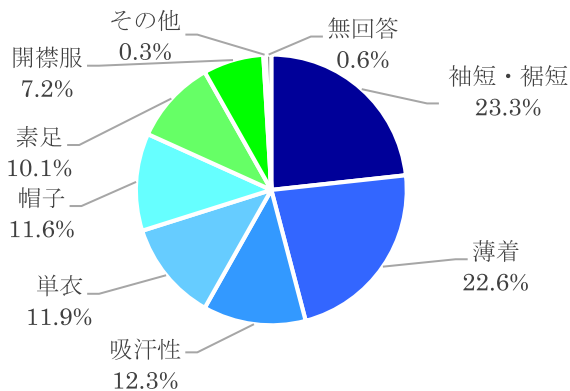


図6 小学生の涼しい着方

学年別に考察すると、「袖短・裾短」、「薄着」はどの学年も上位を占めるが、次に多いのが5年生では、「単衣」(13.4%)、「帽子」(10.7%)、「素足」(13.4%)の順で、「吸汗性」は 8.1%と少なかった。一方、6年生は「吸汗性」(16.3%)は3番目で、「帽子」(12.4%)、「単衣」(10.7%)、「素足」(7.1%)の順で、やや異なる。とりわけ、「吸汗性」といった、繊維の特質に関係した、科学的な対策は6年生の方が認識されている傾向にある(図7)。6年生は2学期に「涼しい着方」の単元を学習していることも影響していると考えられる。

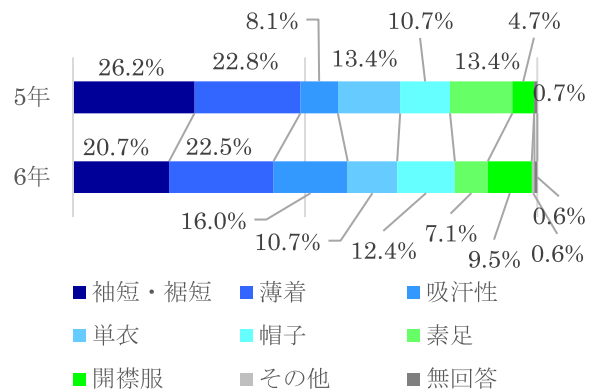


図7 小学生の涼しい着方(学年別)

②短大生の涼しい着方

一方、短大生が夏涼しく暮らすために行っている着方として、98 の回答があった。実行していることを自由記述で回答してもらったので、やや回答項目が小学生とは異なる。その内、最も多いのが、「涼しい素材・服」(35.7%)であり、やや抽象的な表現で多様な要素が考えられる。次いで、「薄着」(19.4%)や「袖短・裾短」(17.3%)が上位である。「吸汗性」(5.1%)、「素足」(5.1%)、「単衣」(1.0%)、「帽子」(1.0%)は少数で、「開襟服」はあげられていない(図8)。

学年別に考察すると、1年生は「涼しい素材・服」(41.8%)が約半数を占めるのに対して、2年生は27.9%しかなく、2番目

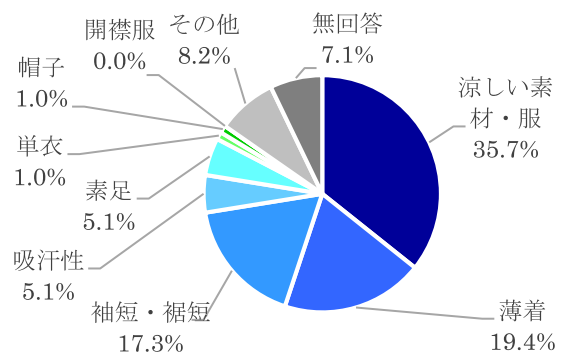


図8 短大生の涼しい着方

の「薄着」(23.3%)と大差がない。1年生は「袖短・裾短」(20.0%)が2番目で、「薄着」(16.4%)が3番目である。また、「吸汗性」は、1年生では1.8%と少数であるが、2年生は9.3%とやや多い(図9)。

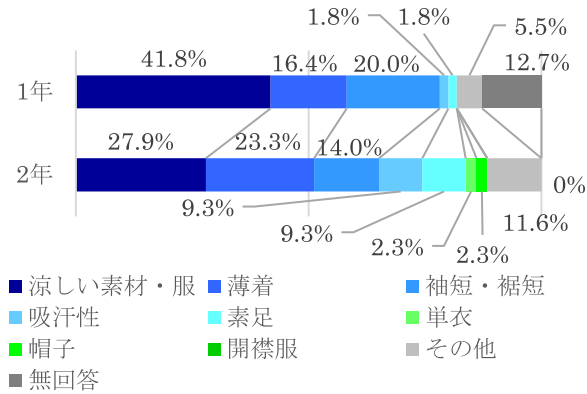


図9 短大生の涼しい着方(学年別)

③小学生と短大生の涼しい着方の比較

小学生と短大生の涼しい着方を比較すると、小学生では、「袖短・裾短」、「薄着」、「吸汗性」、「単衣」が主要素であるが、短大生は「涼しい素材・服」、「薄着」、「袖短・裾短」である。「袖短・裾短」、「薄着」は共に上位であるが、「単衣」は小学生では11.9%あり、短大生は1.0%と少数である。夏の被服にもファッションとしての重ね着スタイルがあり、短大生では重ね着と避暑の関係性の認識が低い可能性があり、また、クーラーのある所で過ごす機会が多いことも影響していると推測される。

他の異なる結果としては、小学生では、「帽子」が11.6%あるに対して短大生は1.0%と少数である。小学生は熱中症対策として帽子を被るように学校で指導されているが、短大生は年代的に髪型の関係や日傘を利用することもあり、少数になったと考えられる(図10)。

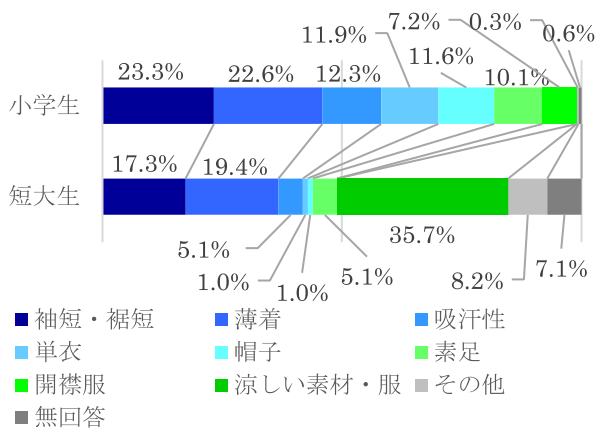


図10 小学生と短大生の涼しい着方比較

2. 暖かい暮らし方

(1) 暖かい住まい方

①小学生の暖かい住まい方

小学生が冬暖かく住まうために行っている対策として339の回答があった。その内、最も多い対策は、「エアコン」(19.5%)であるが、「ストーブ」(18.9%)、「炬燵」(18.9%)、「毛布や膝掛」(17.7%)も大差はなく、この4つで大半を占める。次いで、「ホットカーペット」(13.3%)であり、「床暖房」(4.1%)や「湯たんぽ」(4.1%)は少数である(図11)。

そのために、現代的な「エアコン」が最も多いが、「毛布や膝掛」の様に熱源をもたない方法もあり、多様な方法が用いられていることがわかる。

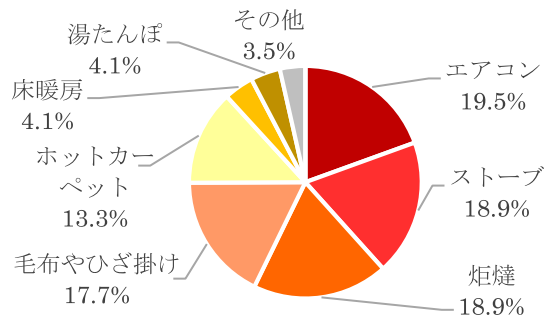


図11 小学生の暖かい住まい方

学年別に考察すると、5年生では「ストーブ」(21.4%)が最も多く、「エアコン」(19.0%)、「炬燵」(18.5%)、「毛布や膝掛」(18.5%)の順である。一方、6年生では「エアコン」(19.9%)が最も多く、「炬燵」(19.3%)、「毛布や膝掛」(17.0%)、「ホットカーペット」(17.0%)の次に「ストーブ」(16.4%)がくる(図12)。順位が学年により異なるが、「ストーブ」、「エアコン」、「炬燵」の割合は5%程度の差異で大差はない。

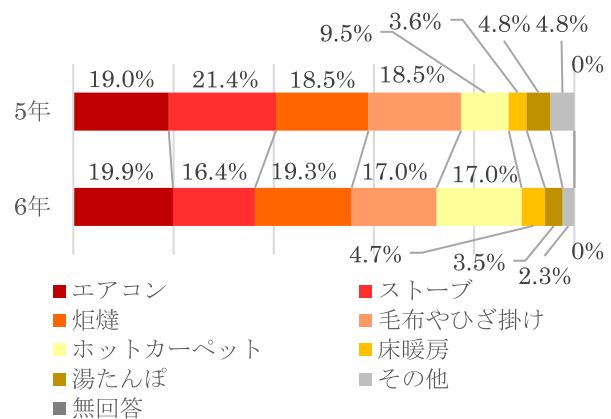


図12 小学生の暖かい住まい方(学年別)

②短大生の暖かい住まい方

短大生が冬暖かく住まうために行っている対策として150の回答があった。「炬燵」(22.0%)が最多であるが、「エアコン」(19.3%)も多く、この2つで半数近くを占める。次いで、「ストーブ・ヒーター」(10.0%)、「布団・毛布」(9.3%)、「床暖房」(4.0%)、「湯たんぽ」(3.3%)、「ホットカーペット」(3.3%)の順である(図 13)。

そのために、日本独特の伝統的な暖房器具の「炬燵」が現代的な「エアコン」を上まわっていることがわかる。また、電気製品の普及により一度衰退したが復活してきているのが、「湯たんぽ」である。

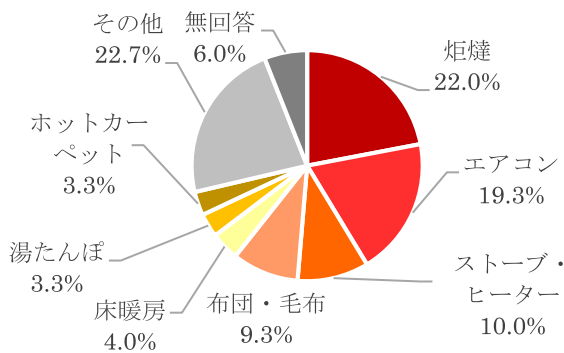


図 13 短大生の暖かい住まい方

学年別に考察すると「炬燵」、「エアコン」の上位2つは変わらないが、「ストーブ・ヒーター」は2年生では少数で、省エネルギー対策の「布団・毛布」や「湯たんぽ」が上まわる(図 14)。

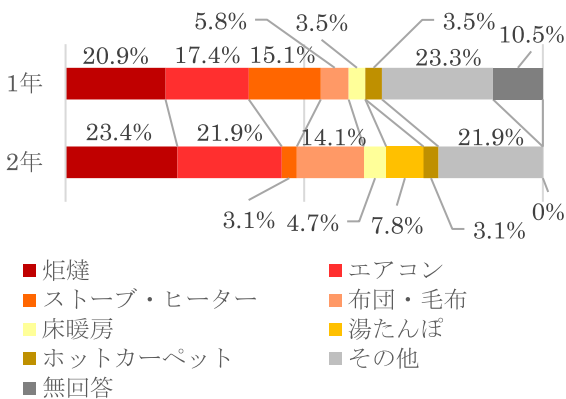


図 14 短大生の暖かい住まい方(学年別)

③小学生と短大生の暖かい住まい方の比較

小学生は「エアコン」が最多で、その次が「ストーブ」、「炬燵」である。短大生は「炬燵」が最多で、次に室内全体を温める、「エアコン」、「ストーブ」である(図 15)。

小学生で炬燵がやや少ない要因として、布団を汚しやすい、

活発な動きをするため布団に足をとられやすい、床座生活になるので部屋が散乱しやすい等が考えられる。炬燵を含め、各々の方法を用いている場所の考察も今後、必要である。

また、「毛布や膝掛、布団」といった熱源をもたない、身体を布で覆う対策は双方で4番目にあげられている。省エネルギーの観点からは評価すべきである。「湯たんぽ」という湯を用いる伝統的な日本の就寝時の暖房方法も少数みられる。

反面、現代的な床を温める、「ホットカーペット」や「床暖房」は和歌山という温暖な気候との関係からか、共に少ない。

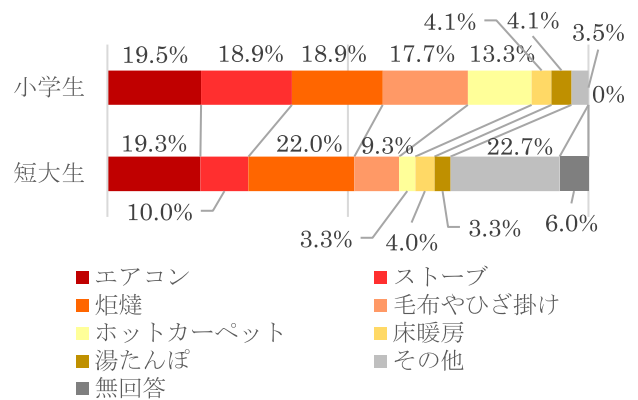


図 15 小学生と短大生の暖かい住まい方比較

(2) 暖かい着方

①小学生の暖かい着方

小学生が冬暖かく暮らすために行っている衣類の着方に関しては 401 の回答があった。その内、外出時の衣類の防寒対策(外出着⁷⁾)が最も多く選択されており、必要性を認識しているといえる。外出着の内訳は、「手袋」(45.7%)が半数近くを占め最多で、次に、「コート」(27.1%)、「マフラー」(14.7%)、「帽子」(12.4%)の順である。

外出着以外では、「袖長・裾長⁸⁾」(13.7%)、「厚着」(13.5%)の回答が多いが、次に続く、「靴下」(12.7%)、「重ね着」(11.0%)、「発熱素材下着」(10.5%)も大差はない(図 16)。

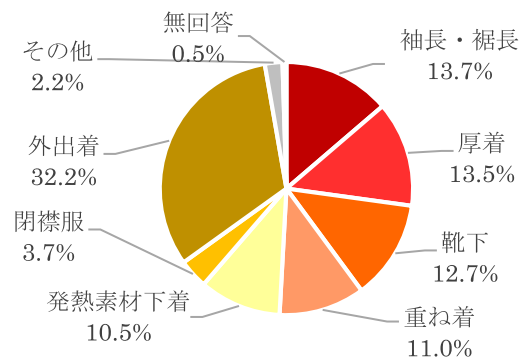


図 16 小学生の暖かい着方

学年別に考察すると、6年生は、「厚着」(13.5%)、「袖長・裾長」(13.1%)、「重ね着」(13.1%)、「靴下」(12.6%)、「発熱素材下着」(10.4%)となり、学年全体の順位と同じである。一方、5年生では、「発熱素材下着」(10.6%)が4番目であるが、概して学年別には大きな差異はみられない(図17)。

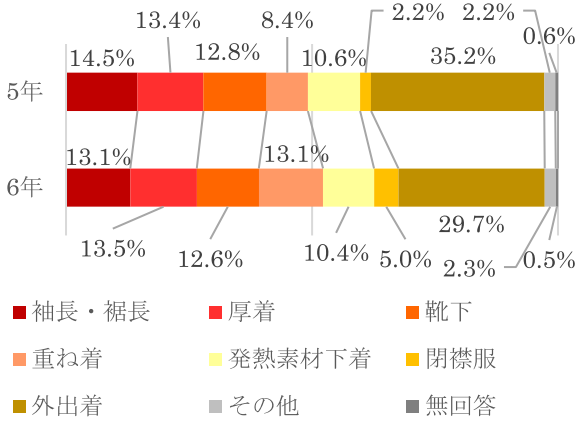


図17 小学生の暖かい着方(学年別)

②短大生の暖かい着方

短大生が冬暖かく暮らすために行っている衣類の着方では127の回答があった。外出時の防寒着(外出着)は26.8%と最も多い。その内訳は、「マフラー」(38.2%)、「コート」(35.2%)、次に、「手袋」(23.5%)である。「帽子」はあげられていなかったが、「イヤーマフラー」(2.9%)が若干みられた。

外出着以外で最も多いのは、「重ね着」(25.2%)である。さらに、「厚着」(15.7%)、「靴下」(10.2%)、「発熱素材下着」(9.4%)となる。一方、「袖長・裾長」は1.6%と少数であった(図18)。

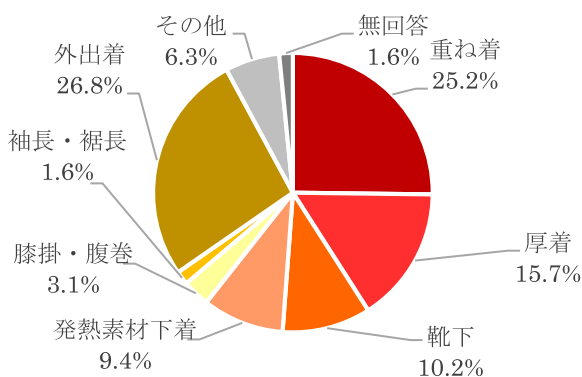


図18 短大生の暖かい着方

学年別に考察すると、1年生では全体の順位と同じであるが、2年生では、「重ね着」(33.9%)が「外出着」(23.2%)よりも多い。また、「靴下」(7.1%)は、「発熱素材下着」(10.7%)より少ない(図19)。

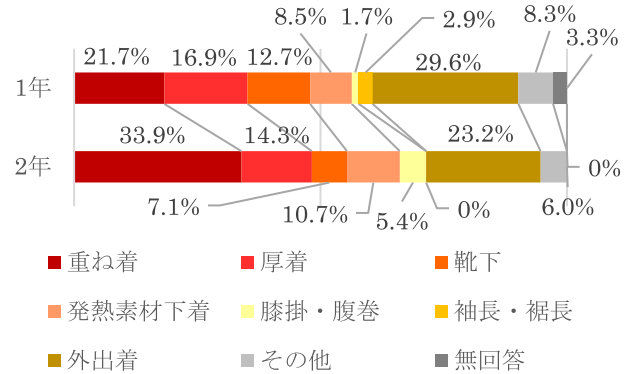


図19 短大生の暖かい着方(学年別)

③小学生と短大生の暖かい着方の比較

小学生と短大生の暖かい着方を比較検討すると、共に最多は外出着であるが、その内訳が異なり、小学生は「手袋」が最多であるが、短大生は「マフラー」であり、「手袋」は3位であった。また、「帽子」は短大生ではあげられていなかった。小学生でマフラーが少ないのは、事故防止上通学時の使用が禁止されていることも関係していると推測される。

「袖長・裾長」は、小学生の2番目の対策であるが、短大生にとっては当然なことで対策としては認識されていないのか、1.6%と少数である。むしろ、「重ね着」や「厚着」といった対策に注意を払っている傾向にある(図20)。

「重ね着」や「厚着」以外で年代を問わず共通にみられるのは、「靴下」、「発熱素材下着」である。とりわけ、現代的な対策である、「発熱素材下着」は小学生でも用いられていることがわかる。

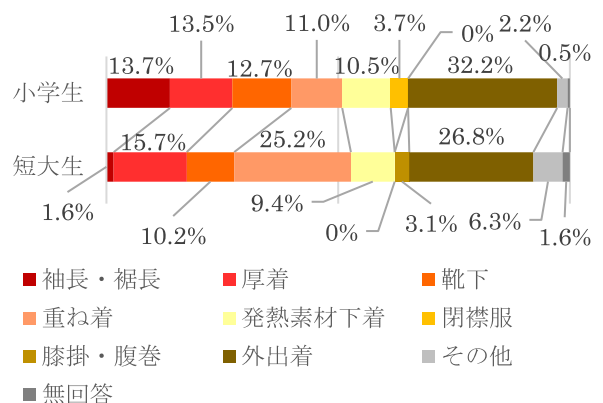


図20 小学生と短大生の暖かい着方比較

まとめ

1. 季節の変化に合わせた快適な生活の仕方でも、夏涼しい住まい方では、現代的な電気器具による方法と昔からの通風、うちわ、遮光、打ち水等の方法が混在して用いられている。小学生の住まい方では、クーラー、扇風機が上位であるが、短大生は通風が最多で、次いで、クーラーである。
2. 夏に涼しく暮らすために行っている衣服の着方に関しては、袖や裾が短い被服の着用や薄着は小学生、短大生共に用いられているが、被服を重ねない着方や帽子は小学生の方が用いている。
3. 冬に暖かく住むために行っている対策では、電気器具、布、湯と多様な方法がみられる。とりわけ、直接的に炎の見えない電気器具が主流である。身体の末端の足を温める伝統的な日本の暖房方法の炬燵は、熱源が炭から電気に変化しているが根強く活用されている。短大生では、エアコンより多く用いられている。また、近年復活してきているのが、湯たんぼである。
4. 冬に暖かく暮らすために行っている衣類の着方では、重ね着や厚地の衣服の着用、靴下を重ねる、発熱素材下着を用いるなど、小学生、短大生共に実行している。外出時の防寒対策では、小学生では手袋に対して、短大生はマフラーが最も多い。また、帽子は短大生ではあげられていなく、やや異なる。

本稿の考察は各々一校だけの集計であるために、学校差や地域性による偏りが考えられる。さらに、対象校を増やし、比較検討が必要である。

文献および註

- 1) 文部科学省:小学校学習指導要領解説 家庭編、pp.44-52、2008
- 2) 文部科学省:小学校学習指導要領、p.120、2017
- 3) 渡邊彩子監修:文部科学省検定済教科書 小学校家庭科用 新しい家庭 5・6、東京書籍株式会社、pp.72-77、pp.80-81、pp.102-107、2016
- 4) 内野紀子他:文部科学省検定済教科書 小学校家庭科用 わたしたちの家庭科 5・6、開隆堂出版株式会社、

pp.56-61、pp.78-83、2016

- 5) 「袖や裾の短い被服の着用」を本稿では「袖短・裾短」と表記する。
- 6) 「衣類を重ねない着方」を本稿では「単衣^{ひとえ}」と表記する。「単衣^{ひとえ}」は本来着物に用いられ、裏地が付く「袷^{あわせ}」の反意語である。一枚の布で仕上げられた着物を指し、発汗性があり軽くて動きやすく、夏に用いられる。
- 7) 外出時の防寒着を本稿では「外出着」と表記する。
- 8) 「袖や裾の長い衣服の着用」を本稿では「袖長・裾長」と表記する。

